

八街市の基幹産業である農業、農地を守るための取り組みと協働のまちづくり

千葉県北部の中央に位置する八街市は、都市部へのアクセスもよく、基幹産業の農業は、落花生、すいか、にんじん、さといも、しょうがなど、野菜を中心とした都市近郊型農業です。農業産出額は162億4千万円（県内5位）で、豆類は全国2位、さといもは全国1位を誇ります（農林水産省：令和3年農業産出額（推計））

農業が抱える課題として従事者の高齢化、担い手の減少、野生鳥獣による被害、生産資材の価格高騰などがあります。その対策として、八街市では新規就農者や後継者育成のために新しい制度の情報提供や相談も行っています。販売促進や野生鳥獣の駆除対策にも力を入れています。

市内には、観光農園や貸農園、市民農園などがあります。これらの農園では、土に触れる体験や実りを実感できる収穫体験をすることができ、農業の楽しさや大切さを知ることができます。新鮮で安全な

地場の農産物を購入できる直売所も多く「地産地消」にも貢献しています。

また、新規就農を目指す人を支援する農場があり体験や見学でき、意向が合えば働くこともできます。

八街市には農業に関わっている福祉事業所があり、「農福連携」が実現されています。農業と福祉が連携して、障がい者が適性に応じた農作業に従事することで、農業では労働力の確保ができ、福祉では障がい者の就労促進につながっています。

就農者が増えることで耕作放棄地の再生も期待できます。農業を通じて地域で生活を営むことは、地域コミュニティの維持や活性化につながり、農業だけでなく、まちの発展にもつながることが期待できます。



八街市で農業を営み、支えている6つの団体を紹介します(学童農園、農福連携、農業承継/新規就農、新たな特産品)

学童農園

八街市立 川上小学校

地域の人が畑の先生、田んぼの先生

川上小学校は勢田川沿いをはじめ、古くから稲作が行われている地域にあります。また150年（創立明治6年2月）の歴史があり、現在の児童数は149人。

校内には、かねてより「川上農園」として畑390㎡、田んぼ63㎡（平成14年開始）が作られ、地域の方の協力で子ども達が体験学習できる環境が整っています。稲作を通して地域の特色を知り、その苦労や工夫に目を向け食に関する関心を高めるために実施しています。

子ども達は、各学年の教科書に載っている作物（さつまいも、きゅうり、ピーマン、ミニトマト、なす、落花生、米、じゃがいも）を種から育て、感謝の気持ちを込めて収穫しています。収穫後は担任の先生、教頭先生が加わり調理実習（通称サラダパーティ）を行っています。

脱穀はボランティアさんのコンバインで行います。脱穀できなかった場合は「一粒も無駄にしない」という気持ちで、手作業で取り出します。時にはスズメによる被害に見舞われましたが、防鳥テープを活用し解決できました。子ども達は、「昔ながらの田植えの苦労を実感することが出来た」「短い時間だったから楽しかったけど、長い時間何日も作業するのは大変だろうな」と語っています。

八街市大谷流867番地1

<https://yachikawakami.jimdo.com>

JAの学童農園支援事業、食育活動支援事業で、鎌、鋤、シャベル、一輪車等の道具を購入できました。

農作業については地域に専門の方がいて、いつも手助けしていただいています。何か問題ごとがあった場合は、誰に頼ればよいかが分かっていて、すぐに来てくださいます。地域の方々に子ども達は育てられ、やさしく、かしこく、たくましく育っています。地域と一緒に歩んでいる川上小学校です。



【まだまだあるぞ 川上農園】

いろいろ こつが あるんだね。



農福連携

障害者支援施設 明朗塾 (社会福祉法人 光明会)

【連絡先】 043-442-0101 八街市八街に20番地 <https://www.meiroh.com>

障がい者の自立支援に繋がる農業就労は『まちづくり』

障害者支援施設を運営している明朗塾では、提供事業(※)利用者の就労支援活動を通して、八街市の基幹産業である農業の一端を担っています。例えば、落花生の殻剥きは年間で250~300袋(1袋は30kgの麻袋)の作業を受託しています(機械では豆が傷つくので手作業)。また、施設の畑の野菜、ジャンボニンニクなどは都内のスーパーやイベントで販売しています。農家さんから選別・袋詰めを委託されたり、施設で育てた野菜、落花生、しょうがなどを材料にした加工食品やお菓子も販売しています。さらには3年前からワイン用のぶどう畑も始めています。

障がい者への福祉サービスと障がい者の就労/作業支援が本来の事業ですが、3つの作業チーム(ファーム、ファクトリー、クリーニング)体制で人手の足りない農作業支援、八街の名産品作り等に取り組んでいます。

社会福祉法人が地域農業にどんな貢献ができるかを考え、規格外や採れ過ぎた野菜などを農家さんと協力して農産物加工する。この取組みにより、農家さんの収益の底上げにつながり、フードロスの削減にも貢献する。そして、売り上げは障がい者の工賃に反映され、就労を続けられることが障がい者の自立支援にも繋がります。多様な人たちがこの地域でその人らしい生活ができることは、持続性のある「まちづくり」につながります。



※提供事業：生活介護、就労継続支援B型(就労が難しい方の非雇用契約での就労訓練)、施設入所支援、短期入所、就労定着支援

就労継続支援事業所 夢のカタチふあーむ

【連絡先】 夢のカタチ 043-386-3284
八街市八街ほ234番地24 <https://www.shapeofdream.com>

障がいがあって生きづらさを感じている人たちの力になりたい

創立は2017年。現在スタッフは26名です。就労継続支援B型事業所として18名の就労者がいます。精神的、聴覚、身体的障がいのある人たちです。実際に働くことで自分の特性や可能性を探り、対価として収入を得ることで生活の基礎力をつけることができます。

週5日、1日5時間を基本として、主に室内での検品作業や農場での簡単な作業を個人の能力に合わせて行っています。収穫した農産物8品目を入れたセットボックス(送料込み3千円)を知人やSNSを通して販売しています。主な販売先は、パルシステム千葉、レストラン、都内の施設などで、売り上げは伸びています。就労者への工賃(賃金)は平均以上を支給しています。就労者の利用料金は無料です。

夢のカタチの目標は、B型事業所のモデルケースを作っていくことです。農業経営による障がい者の雇用とともに障がい者の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現する農福連携の取組です。実際、介護の資格を取って2名が就労移行を達成しました。就労者には、自分のやりたいことが叶えられるよう「自分は障がい者であること」を意識させないようにしています。

課題は、障がい者が交流できる居場所、機会を持つこと。また農業以外の分野で、障がい者でもできる可能性があることにチャレンジしていきたい。将来的には子ども食堂、地域食堂などもやってみたいと思っています。



農業承継 / 新規就農

株式会社 留守農場

開拓から3代目 こだわりの野菜作り

農場の始まりは、鍋島開墾団(※)の一員として、祖父が山田台に居を構え、この地区の開拓に加わったことからです。八街の土壌はふかふかの火山灰土。農耕には最適の土地でした。昭和26年に父が引き継いで農業を進めていきました。父は働き者でしたが、人に教えることは上手ではなかったため、私は反発して若い頃は柏市で弁当屋をやりました。その後、父は高齢のため引退。約20年前、私が41歳の時、法人化して跡を継ぎました。

スタッフは私と息子を含め計19名です。平均年齢は30歳弱。作付け面積は15ha(東京ドーム4個分以上)です。八街は温暖な気候、水はけの良い土質。日本一野菜作りに適している地域だと思います。食は生命の源。『農業は笑顔の集合体。作り手も食べる人も皆が笑顔に』の精神で丹精込めて60種類の野菜を育てています。さつまいも、とうもろこし、にんじん、しょうが、ごぼう等が主な作物です。甘くて赤いにんじん、白いうもろこしが特に自慢です。全国のスーパーや房の駅、

【連絡先】 留守 剛さん 043-445-4127
八街市山田台426番地2 <https://www.rusunajo.co.jp>

直売所で販売しています。これからは他の農家で作っていない野菜や新しい農業にチャレンジしたいと思っています。

課題として、農業は自然が相手。異常気象の脅威には苦労しています。次いで、担い手不足の問題。外国人もスタッフとして活躍しています。最後に、耕作放棄地の問題。飛んで来る雑草の種は大迷惑。荒れ地にしないよう有効な対策が望まれます。

(※) 鍋島開墾団：元佐賀藩主の鍋島家が八街南部の小間子牧の土地を買入れ、旧藩士の人材活用、作物の試作、植林などの開墾事業に尽力した。



米田ファーム

「農業はすごく楽しく、魅力的だ！」

私は兵庫県に生まれました。子どもの頃からアウトドアを多く体験してきたので農業に興味がありました。そのため北海道酪農学園大学に進学し、22才で農業をやろうと決めていましたが、飲食業に就職。北海道にある、会社の契約農家に26才で転勤させてもらい4年間働きました。就農する場所を北海道か千葉で迷いましたが、妻の実家のある八街に決めました。

農業をやりたい仲間をインターネット等で募り現在従業員は11名です。親元就農者(※1)と変わらない程度のインフラを整え、耕作面積は10ha。就農から11年目を迎えます。栽培作物はすいか、えだまめ、落花生、にんじん、しょうが、さつまいもなどです。

今後の目標は、

- 変化する気候の中で、5年10年安定して80点以上とれる技術を磨くこと
- 従業員に他の企業と変わらない給料を払えるようにすること
- 農業が好きで農業をやりたい人に情報や体験を提供すること

その実現のために「農家で働きながら、新規就農を知る合宿」を行い、農地を購入するときにあった家屋を一棟貸しする農泊(※2)をはじめ準備も進んでいます。ネット販売に力を入れる一方で、有人の直売所を作る計画もあります。

【連絡先】 米田 将之さん 090-3919-0240
八街市八街い63番地7

「千葉といえば米田ファーム」と、就農希望者に思ってもらえるような魅力的な農場を作ることが目標です。米田ファームではスタッフの募集やイベントの紹介、新規就農を行う上での気づきなどをその都度SNSで発信しています。農業に興味があってこれから始めてみたい方などは是非ご覧ください。



facebook



Instagram



X



(※1)
親元就農とは、家業を継いで農家になることです。

(※2)
農泊とは、農山漁村に宿泊し、滞在中に豊かな地域資源を活用した食事や体験等を楽しむ滞在型旅行のことです。



農業の6次産業化 八街でぶどうの生産・加工・販売

「Sawa Wines」は、八街産のぶどうを使った、市内初のワイナリーです。

小谷流地区にあるワイナリーと直営ショップの前にはぶどう畑が広がっています。実家はもともと農家で、家庭の事情で畑を貸していましたが、その土地が返ってくることになりました。飲食業界で働いていたときにワインを扱っており興味もあったので、ワインを造ろうと、畑を受け継ぎ、ぶどう栽培を始めました。

栽培したぶどうをワインとして初めて商品化したのは平成26年。はじめは醸造を外部に委託していましたが、生産・加工から販売までのすべてを自前で行う『6次産業化』を目指し、平成30年に「株式会社山本ファーム」を設立し、ワイナリー設立へ向けて本格的に動き始めました。

そして、令和3年10月に八街市ワイン特区(※)を活用して「果実酒醸造免許」を取得し、ついに自社ワイナリー「Sawa Wines」を誕生させました。さらに、令和4年4月には直営ショップがオープンし、オンライン販売も行っています。

八街の気候はぶどう栽培に適していますが、令和元年の台風ではぶどうが大きな被害を受け、「クラウドファンディング」の支援を呼びかけました。目標を上回る支援があり、全国に知ってもらう機会と、一緒に頑張ろうと応援してくれるファンを集めることができました。「Sawa Wines」で生産、加工され、出荷しているワインは、今では地元の新たな特産品になっています。

※市では、比較的小規模な事業主体でも果実酒製造免許を取得できる「八街市ワイン特区」を国に申請し、令和2年3月に認定されました。



一緒に活動できる方を求めています！

「制服のリユース」

- ✓ 市民が中心となり、中高生の制服の再利用、有効活用の仕組みづくりを考えています。関心のある方の参加を募集します(ボランティア活動)。

「フードパントリーのサポーター」

- ✓ フードパントリーを定期的開催するために事前準備をお手伝いできる方を募集します。不定期でお手伝いできるアクティブシニアを募集します(ボランティア活動)。

訂正とお詫び

Vol. 2の「希望の会」記載内容に間違いがありました。お詫び致します。「楽落声」⇒「楽歌声」

PiTに訪れた人たち

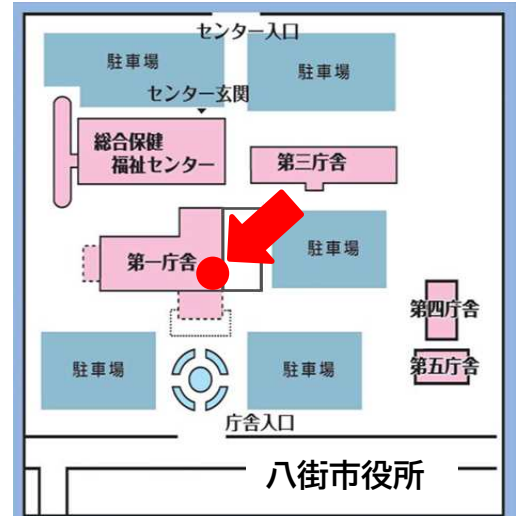
	総数	人数/件数		内訳			
		来訪	電話	一般	団体 法人	行政 関係	事業者
10月-12月	92	80	12	35	19	33	5



八街市 協働のまちづくり
市民協働推進課 PiT
ホームページ メールアドレス



協働のまちづくりPiT(ピット)



開場時間: 月曜日～金曜日 9時～17時

〒289-1192 八街市八街ほ35番地29
市民協働推進課 協働のまちづくりPiT(第1庁舎1階)
043-312-2012 kyodo-team@city.yachimata.lg.jp